

**未来社会創造事業 探索加速型探索研究**  
**事後評価結果**

1. 領域

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

心理状態の客観的把握とフィードバック手法の確立による生きがい・働きがいのある社会の実現

3. 研究開発課題名

うつ兆候のモバイルヘルスによるプレゼンティーズム軽減

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

岡本 泰昌(広島大学大学院医系科学研究科 教授)

5. 評価結果

評点: S (特に優れている)

総評:

本研究開発課題は、誰もが、いつでも、どこでも、こころの健康をセルフマネジメントできる社会を目指すものである。

探索研究期間では、うつの未病段階に出現する兆候を簡便に捉えるセンシングと、認知行動療法プログラムを利用するセルフマネジメント型メンタルヘルスケアが実現可能であることを明らかにしたことを高く評価する。

特に、センシングについては、複数の特徴量を組み合わせて機械学習を用いて隠れた情報を抽出することにより高い精度で閾値下うつ群と健常群との判別を実証することによって、またメンタルヘルスケアについては、数十名の閾値下うつ群を対象にした小規模介入試験により、スマートフォンを使った認知行動療法プログラムの効果を実証することによって、当初の計画を上回る成果が認められる。

今後は、研究成果の実用化に向け、社会受容性に留意しながら研究開発を進めることを期待する。

以上